

平成 28 年度事業報告

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

概説

I 囲碁普及事業（公益目的事業 1）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 囲碁普及と囲碁指導
 - 3-1 青少年等への囲碁普及
 - 3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 3-3 海外への囲碁普及
- 4 围碁対局環境の提供
- 5 段級位認定
- 6 围碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 围碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 国際囲碁選手権の開催及び海外囲碁大会等の協力
 - 6-4 東日本大震災復興支援タケフ基金の活動
- 7 表彰
- 8 围碁関係情報提供
- 9 围碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部
 - 10-4 海外囲碁センター

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業 1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業 2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業 3）

III 管理部門

- 1 受取寄付金
- 2 コンプライアンス（内部統制）
- 3 暴力団排除条項について
- 4 围碁大使の拡充
- 5 広報コミュニケーション室へ拡充

IV 「100周年ビジョン」の推進

概説

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁爱好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供並びに囲碁大会の開催、小中高・大学への囲碁授業等を積極的に推進しました。

平成28年度は、囲碁A Iと棋士との対局、井山裕太七冠達成が大きな話題になった。

I 围碁普及事業（公益目的事業1）

1 棋戦事業

棋士は、棋戦を通じてその創造的思索の頂点を極めるべく、研鑽の成果を盤上で競い合い、棋戦によって囲碁の世界に数々のドラマと歴史を生んできました。棋戦の模様は新聞囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビやインターネットで中継され、全国の囲碁爱好者家の棋力向上と囲碁文化の振興に資することができました。地方で開催される挑戦手合や各種棋戦では、棋士と地元の囲碁爱好者家や子どもたちの交流の場として、対局観戦の機会提供や解説会・指導碁等、ファンイベントを同時に開催しました。

平成28年4月20日の十段戦第4局で勝利した井山裕太棋士がタイトル奪取し、七冠（棋聖、名人、本因坊、王座、天元、碁聖、十段）の全冠同時保持の大記録を樹立し、大変な話題となりました。なお、この七冠制覇の後、井山棋士はその功績を称えられ内閣総理大臣顕彰を受けました。

また、急速に進歩を早めている囲碁A Iと日中韓トップ棋士が対戦するワールド碁チャンピオンシップを29年3月に開催し、大変大きな話題となりました。

これらを含めた棋戦の結果は以下の通りです。（段位は対局当時）

（1）棋聖戦（第41期 棋聖決定七番勝負 読売新聞社）

井山 裕太 棋聖 — 河野 臨 九段

（井山 裕太 棋聖が4勝2敗で棋聖位を5連覇）

（2）名人戦（第41期 名人決定七番勝負 朝日新聞社）

高尾 紳路 九段 — 井山 裕太 名人

（高尾 紳路 九段が4勝3敗で名人位を奪取）

（3）本因坊戦（第71期 本因坊決定七番勝負 毎日新聞社）

井山 裕太 本因坊 — 高尾 紳路 九段

（井山 裕太 本因坊が4勝1敗で本因坊位を5連覇）

（4）王座戦（第64期 王座決定五番勝負 日本経済新聞社）

井山 裕太 王座 — 余 正麒 七段

（井山 裕太 王座が3勝0敗で王座位を2連覇）

（5）天元戦（第42期 天元決定五番勝負 新聞三社連合）

井山 裕太 天元 — 一力 遼 七段

（井山 裕太 天元が3勝1敗で天元位を2連覇）

- (6) 暮聖戦（第41期 暮聖決定五番勝負 新聞囲碁連盟）
井山 裕太 暮聖 — 村川 大介 八段
(井山 裕太 暮聖が3勝0敗で暮聖位を5連覇)
- (7) 十段戦（第54期 十段決定五番勝負 産経新聞社）
伊田 篤史 十段 — 井山 裕太 棋聖
(井山 裕太 棋聖が3勝1敗で十段位を奪取)
- (8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープントーナメント（第23期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗）
二十五世本因坊治勲 — 河野 臨 九段
(河野 臨 九段が勝ち初優勝)
- (9) 阿含・桐山杯日中決戦（第18期 每日新聞社・京都新聞社・阿含宗）
河野 臨 日本桐山杯 — 柯潔 中国桐山杯
(柯 潔 中国桐山杯が勝ち優勝)
- (10) 新人王戦（第41期 しんぶん赤旗）
谷口 徹 二段 — 大西 竜平 二段
(大西 竜平 二段が2勝0敗で新人王を獲得)
- (11) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦（第64回 NHK）
井山 裕太 棋聖 — 一力 遼 七段
(井山 裕太 棋聖が勝ち初優勝)
- (12) テレビ囲碁アジア選手権（第28回 NHK、CCTV、KBS）
申 眞諱 六段 — 李 欽誠 二段
(李 欽誠 二段が勝ち優勝)
- (13) 龍星戦（第25期 囲碁将棋チャンネル）
井山 裕太 棋聖 — 一力 遼 七段
(一力 遼 七段が勝ち初優勝)
- (14) 围碁マスターズカップ（第6回 フマキラー）
小林 光一 名誉棋聖 — 淡路 修三 九段
(小林 光一 名誉棋聖が勝ち初優勝)
- (15) ワールド碁チャンピオンシップ（第1回 日本棋院）
日中韓のトップ棋士（順に井山裕太、芈昱廷、朴廷桓の各九段）と囲碁AI・DeepZenGoによる世界一決定戦
(韓国の朴 廷桓 九段が優勝)
- (16) グロービス杯 世界囲碁U-20（第3回 グロービス）
許 家元 三段 — 李 欽誠 初段
(李 欽誠 初段が勝ち優勝)

(17) 女流本因坊戦（第35期 五番勝負 共同通信社）

謝 依旻 女流本因坊 — 藤沢 里菜 三段

(藤沢 里菜 三段が3勝1敗で女流本因坊位を奪取)

(18) 女流名人戦（第29期 三番勝負 産経新聞社）

謝 依旻 女流名人 — 藤沢 里菜 三段

(藤沢 里菜 三段が2勝0敗で女流名人位を奪取)

(19) 女流棋聖戦（第20期 三番勝負 NTTドコモ）

謝 依旻 女流棋聖 — 牛 栄子 初段

(謝 依旻 女流棋聖が2勝1敗で女流棋聖位を5連覇)

(20) 扇興杯女流最強戦（第1期 センコー）

謝 依旻 女流本因坊 — 向井 千瑛 五段

(謝 依旻 女流本因坊が勝ち初優勝)

(21) 会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦（第3回 温知会）

謝 依旻 女流本因坊 — 青木喜久代 八段

(謝 依旻 女流本因坊が勝って初優勝)

(22) 王冠戦（第57期 中日新聞社）

羽根 直樹 王冠 — 伊田 篤史 八段

(伊田 篤史 八段が勝ち王冠位を奪取)

(23) 広島アルミ杯・若鯉戦（第11回 広島アルミニウム工業）

一力 遼 七段 — 本木 克弥 七段

(一力 遼 七段が勝ち優勝)

(24) 内閣総理大臣杯 文部科学大臣賞 グランドチャンピオン戦（日本棋院、関西棋院）

山下 敬吾九段 — 一力 遼 竜星・広島アルミ杯・おかげ杯

(一力 遼 竜星・広島アルミ杯・おかげ杯が勝ち優勝)

(25) おかげ杯囲碁トーナメント戦（第7回 濱田総業）

安斎 伸彰 七段 — 一力 遼 七段

(一力 遼 七段が勝ち優勝)

(26) おかげ杯国際新銳対抗戦（第3回 濱田総業）

日本、中国、韓国、中華台北4カ国地域5名一組の団体戦。

(中国が優勝)

(27) ゆうちょ杯囲碁ユース選手権（第3回 ゆうちょ銀行）

吳 柏毅 二段 — 斎藤 虎丸二段

(吳 柏毅 二段が勝ち優勝)

(28) 国際新銳囲碁対抗戦

日本、中国、韓国、中華台北4カ国地域8名一組の団体戦。

(中国が優勝)

(29) OVER40 早碁トーナメント戦 (第3回 日本棋院)

高尾 紳路 名人 — 加藤 充志 九段

(高尾 紳路 名人が勝ち優勝)

(30) イベロジャパン杯 (第3回 イベロジャパン)

大西 竜平 二段 — 広瀬 優一 初段

(大西 竜平 二段が勝ち優勝)

(31) トライカッププロ囲碁団体戦 (第1回 市橋工業)

3人一組のチーム戦

(謝ファミリー：本木克弥八段、平田智也七段、謝依旻六段)

(32) 13 路盤プロアマトーナメント (第1回 日本棋院)

二十四世本因坊秀芳 — 河野 臨 九段

(二十四世本因坊秀芳が勝ち優勝)

なお、日中竜星戦 (第3回 囲碁将棋チャンネル) は、4月29日に、一力 遼 日本竜星

— 半 昕廷 中国竜星が対戦し、半 昕廷 中国竜星が勝利しました。

(33) 海外棋戦

海外棋戦では、応氏杯、LG杯、三星火災杯、農心杯、春蘭杯、百靈杯、新奥杯、黄竜士双登杯、天台山農商銀行杯、穹窿山兵聖杯、利民杯、丙級リーグ（中国）に参戦しました。

平成25年度から海外棋戦参戦にあたっては、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すため、「日本の代表として一丸となって戦う」という強い動機をもったナショナルチーム『GO・碁・ジャパン』を結成し、4年目を迎えました。

28年度も監督、コーチ、選手の総勢53名のチーム編成により、上記の海外棋戦に臨みました。

チーム参加棋士の棋力強化に向けた取り組みとして、次のイ、ロ、ハを行いました。

イ 神奈川県三浦海岸にて年2回（7月、12月）の棋力強化合宿

ロ ネット対局「幽玄の間」による育成リーグの強化対局

ハ ナショナルチームメンバーによる定期研究会

また、平成25年度に創設した、チームの活動を支援することを目的とした「囲碁ナショナルチーム応援募金」は、28年度はファンの皆様から398件の募金がありました。

募金は、チーム参加棋士の棋力強化合宿経費等に活用し、チーム強化を図りました。

2 棋士育成事業

強い棋士を養成するため、院生育成及び若手棋士育成に注力し、研鑽のため強化合宿を実施しました。

(1) 院生強化育成

① 院生研修

棋士を目指す約100人の院生をAからEクラスに分け毎週土・日曜日（8回/月）に研修を東京本院・中部総本部・関西総本部で実施しました。研修日には師範が礼儀作法から棋士としての心得などの指導を行いました。

毎月の成績によりクラスの昇降を行い、院生の中から夏季採用として本院の4月～6月期研

修総合成績1位の者1名、本院・中部・関西の院生研修上位者47名と外来受験者20名が参加し8月～11月に棋士採用試験を本院・中部総本部で実施し計3名、関西総本部は院生研修リーグ総合で1名、また、12月～2月に女流特別採用を実施し1名、合計6名の棋士採用を実施しました。

- ・本院夏季採用（1名）　栗原 駿
- ・本院冬季採用（2名）　芝野龍之介、関 航太郎
- ・中部本戦採用（1名）　西岡 正織
- ・関西本戦採用（1名）　坂井 嵩司
- ・女流特別採用（1名）　茂呂 有紗

② 院生研修検討会

院生研修日には、タイトル・リーグ入り経験のある棋士による研修対局の解説検討指導を144回実施しました。

③ 院生ネット指導

毎週火・水・金にネット対局「幽玄の間」を利用し、棋士による個別対局指導を308局実施しました。棋譜については一般公開しました。

（2）若手棋士育成

① 囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」に20歳以下の若手棋士31名が登録・参加

神奈川県三浦海岸において、7月12日から15日までと12月26日から31日までの日程で、U-20の一力遼七段、藤沢里菜三段を始めとする28名の若手棋士が、一般選手、監督・コーチとあわせた計50名（関西棋院棋士を含む）で、棋力強化合宿を実施しました。

② 語学スキルアッププラン

近年の急速なグローバル化に対応するため、世界に通用する人材を育成するスキルアッププランを実施。5名の棋士（熊ホウ六段、阪本寧生五段、鶴田和志四段、村上晶英三段、卞聞愷二段）が、約9ヵ月間英会話スクールで受講し、最終的に資格試験を受験しました。

3 囲碁普及と囲碁指導

囲碁の素晴らしいを幅広い世代に伝え、また、多くの囲碁愛好者の棋力向上のため、棋士による指導のほか、普及指導員による囲碁指導を全国で展開しました。

3-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全な育成に寄与し学校教育に役立つことを広く認識してもらうために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した普及事業を展開しました。

（1）囲碁入門・初級教室の実施

① 入門囲碁体験教室を開催

全国の小・中学校、自治体等の要請により延べ504名の棋士を派遣し指導を行いました。また、現地での継続的な開催ができるよう支援しました。

② ジュニア教室の開催

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応

じたジュニア教室を開催しました。

(2) 学校教育への囲碁導入

小・中・高校及び地域に密着した囲碁事業を推進するため、行政と一体となった普及活動を展開し、とくに小学校では授業に囲碁をとりいれてもらう働きかけを強化しました。

平成27年4月に設立した「がっこう囲碁普及基金」により、以下の学校事業を実施。

平成28年度は、小・中・高校の正課授業として95校 18,397人、正課授業以外として146校 34,925人が参加いたしました。

平成28年度小学校囲碁授業実施校は下記のとおり。

岩見沢市立北村小学校、旭川市立新町小学校、弘前大学教育学部附属小学校、八戸市立八戸小学校、能代市立淳城西小学校、能代市立第五小学校、能代市立常盤小学校、能代市立二ツ井小学校、能代市立淳城南小学校、能代市立鶴形小学校、新庄市立日新小学校、大田市立九合小学校、中央区立明石小学校、中央区立常盤小学校、中央区立城東小学校、中央区立中央小学校、中央区立明正小学校、中央区立泰明小学校、中央区立月島第二小学校、中央区立京橋築地小学校、品川区立浅間台、品川区立城南小学校、千代田区立九段小学校、千代田区立千代田小学校、渋谷区立笹塚小学校、渋谷区立神南小学校、港区立白金小学校、江戸川区立上一色小学校、江戸川区立東小岩小学校、江戸川区立一之江小学校、江戸川区立春江小学校、小金井市立南小学校、小金井市立小金井第二小学校、清瀬市立清瀬第七小学校、川崎市立はるひ野小学校、川崎市立片平小学校、伊那市立伊那西小学校、熊野市立有馬小学校、熊野市立飛鳥小学校、熊野市立神上小学校、大田市立仁摩小学校、出雲市立荒木小学校、大田市立高山小学校、福岡市立塩原小学校、福岡市立舞鶴小学校、福岡市立西新小学校、久留米市立高良内小学校

〈主な行政囲碁事業の取組み〉

【東京都中央区】

平成24年から区内の4つの小学校で、総合的な学習の時間を利用した囲碁授業を開始、平成28年度は8つの小学校で、日本棋院の棋士による指導を実施しています。授業のコマ割に合わせて、指導教材、カリキュラムを用意し、学校で囲碁授業を導入する際のモデルケースとなっています。

【東京都品川区】

放課後子どもプラン『すまいるスクール』で囲碁教室を開催。区内小学校37校のうち、33校が囲碁を採用しました。品川区は「放課後子どもプラン」（文部科学省・厚生労働省）において、東京都各区で囲碁を導入する際の推進モデル地区となります。

【埼玉県北本市】

平成28年度は、2つの小学校で囲碁体験授業を開催。教育委員会と日本棋院が連携し、事業を推進しています。毎年開催される指導者講習では地元指導者を増やし、事業を盛り上げています。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充し、指導者を養成するため、公益財団法人JKAの青少年健全育成補助を受け、学校囲碁指導員講習会を全国17カ所で実施し、約500人が参加しました。

(4) 大学での囲碁授業の導入拡大

① 東京大学教養学部と連携して囲碁授業を継続

平成17年より、東京大学教養学部と連携して1、2年の囲碁初心者を対象にした全学体験

ゼミナール「囲碁で養う考える力」を創設し、大学囲碁授業のモデルケースとなっています。この講座は対局を交えて囲碁を実戦で学ぶことを通じて、判断力・分析力・集中力など総合的な考える力を身につけることを目的とした取り組みを継続的に行ってています。

(2) 新たに7大学において囲碁授業を開始

これまで囲碁授業開講をしていた東京大学、東邦大学、早稲田大学、慶應義塾大学、皇学館大学、青山学院大学、埼玉大学、琉球大学、名古屋大学、京都大学、東京工業大学、筑波大学、江戸川大学、福山大学、近畿大学、大阪大学、一橋大学、神奈川大学、福島大学、日本農業経営大学校、東京学芸大学、熊本学園大学（公開講座）、九州大学に加え、東京理科大学、愛知学院大学、長岡技術科学大学、信州大学、佐賀大学、名古屋市立大学、神奈川工科大学の7大学が新規開講し、合計30大学等となりました。日本棋院は囲碁授業実施大学に棋士を講師として派遣しました。

28年度も新規囲碁授業の開講に向けて働きかけを継続的に行い、平成29年度はさらに複数の大学で囲碁授業が新たに開始する予定です。

(5) がっこう囲碁普及基金の創設

拡大する学校囲碁授業への対応とさらなる推進のため、広く特定寄付金を募ろうと「がっこう囲碁普及基金」を創設いたしました。小中高・大学等での囲碁授業の支援のために活用しております。平成28年度は421件のご支援をいただきました。

(6) 法人賛助会員の維持

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただく目的で、平成17年に創設しました。子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しています。

平成28年度は、37社よりご支援を頂きました。

3-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

世代を超える生涯楽しめるものとして、また、地域社会におけるコミュニケーションの場づくりとして囲碁を取り入れられるよう積極的に活動しました。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施しました。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努めました。

(3) ネット指導碁

インターネットの特性を生かし、全国の囲碁ファンが気軽に棋士の指導を受けられるよう、日本棋院が運営するインターネット対局サイト「幽玄の間」上で指導碁を実施し、実施局数は延べ2,154局（前年比-420）にのぼりました。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士派遣を実施。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行いました。国内で255件実施し、延べ665人の棋士を派遣しました。

(5) 囲碁未来教室の開催

月刊誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援しました。全国 143 カ所で実施しました。

(6) 囲碁爱好者との連携強化

より多くの囲碁爱好者との連携を深めるため、地域の県本部と連携し、全国各地で囲碁イベントを実施する等、個人・支部会員、法人会員の維持・拡大に努めました。

また全国の支部と連携をとり、各地域での囲碁普及活動及び爱好者の棋力向上に努めました。そのほか支部代表者懇談会を全国 8 カ所で開催し、現地の要望、提案等意見交換を行い、活性化を図るとともに普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰を行いました。

第 37 回普及功労賞

田代 貢	(荒川支部相談役)
武間 長光	(島根県支部連合会副会長)
都村 忠弘	(香川県本部長)
武藤 和義	(長崎県支部連合会長)

第 35 回普及活動賞 全国で 47 名を表彰

平成 28 年度優秀支部表彰 支部ポイント数十傑 一位 三重支部（三重県）1340 P
会員増十傑 一位 三重支部（三重県）28 名

(7) 留学生対象の囲碁講義

青山学院大学の留学生を対象に、10 月 20 日、27 日の 2 回にわたり、囲碁授業を実施しました。これは留学生に日本の伝統文化に実際にふれて学んでもらうという目的で実施されています。囲碁の授業は 2005 年より始まり、今年度で 11 回目を迎えました。

3-3 海外への囲碁普及

国際交流、文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介し、他国の囲碁団体とともに、囲碁人口の拡大と現地囲碁爱好者の棋力向上に努めました。

(1) 国際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、2016 年国際囲碁連盟（IGF）の副会長国として、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁団体の活動支援に努めました。

(2) 棋士の海外派遣

- ① 7 月 19 日～21 日、ロシア・サンクトペテルブルグにて EGCC 碁キャンプを開催。ヨーロッパの強豪選手を鍛えるための合宿を行い、山城宏九段、大橋拓文六段を指導のため派遣いたしました。
- ② 第 60 回ヨーロッパ碁コンgresは（7 月 22 日～8 月 7 日）ロシア・サンクトペテルブルグにて開催され、EGCC 碁キャンプに引き続き大橋拓文六段を派遣しました。
- ③ 第 32 回 U.S. 碁コンgresは（7 月 30 日～8 月 7 日）マサチューセッツ州ボストン大学にて開催され、指導のため阪本寧生五段を派遣いたしました。
- ④ 2017 年 3 月 23 日～3 月 30 日までシアトル碁センターに卞 聰愷（ビヤン ウォンケイ）二段を派遣し、地元シアトルの爱好者を中心にワークショップを開催しました。
- ⑤ 第 11 回 在ドイツ日本国大使杯囲碁大会が 9 月 30 日～10 月 2 日、ベルリンの在ドイツ

日本国大使館にて開催され、熊本六段を派遣しました。

⑥ 第10回 在デュッセルドルフ総領事杯囲碁大会は11月12日～13日にデュッセルドルフにて開催、大橋拓文六段を派遣しました。

(3) サマー碁キャンプの開催

8月23日から9月1日まで、外国人愛好家を対象にした囲碁研修を実施しました。棋力向上と、日本の囲碁文化を学ぶという目的のもと世界13カ国・地域から20名が参加し、研修は、すべて英語で実施しました。本キャンプは「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」= (WFS C) の公式サイドイベントとなりました。また本キャンプの開催中に、アーツカウンシル東京主催の「浅草囲碁体験教室」が8月28日、浅草文化観光センターにて開催され、約100名以上の外国人が囲碁入門を楽しみました。サマー碁キャンプは今後、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム『ジャパン碁コングレス』構想の根幹となるイベントとなります。

(4) 日露交流事業

2017年3月11日～12日、日露青年交流センター主催の「囲碁交流招聘プログラム」で、ロシアから囲碁愛好家が20名来日。3月11日には囲碁の歴史、囲碁ワークショップなど受講し、日本棋院を見学。12日には日本棋院有楽町センターで日本の学生との交流対局を実施しました。

(5) 日本棋院ASEAN囲碁研修 アウトバウンド交流事業

国際交流基金の助成を得て、シンガポール・マレーシア・タイにて「日本棋院ASEAN囲碁研修プログラム」を実施しました。

第1班は9月8日～9月17日、松本武久七段と王唯任五段をタイに派遣、第2班は9月9日～9月22日、水間俊文七段と小松大樹二段をシンガポール、マレーシアに派遣しました。

このASEAN囲碁研修は昨年初めて開催され、学校教育に役立つ囲碁を世界に広めるため、東京でインストラクター向け入門指導方法等の研修を行い、各国参加者との共同研究を行いました。今回は共同研究した内容を実際にASEANに訪問して協働作業を行い、囲碁を担当する講師や生徒たちと実際に触れ合うことができました。

(6) 岩本北米囲碁基金(=INAF)の北米囲碁教師研修

INAF北米囲碁教師研修を10月18日～25日、アメリカから囲碁指導者8名、メキシコから1名、計9名を招聘し、東京・日本棋院にて開催しました。各自の指導について情報を共有するとともに今後も共同で研究を続けていくことになりました。

4 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、インターネット通信対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に努めました。

(1) 一般対局室の開設

各施設において対局場を開設し、「級位者・有段者の集い」など来館者の組合せを行うほか入門者向けのコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供し、延べ27,120人が利用しました。

(2) インターネット対局サイト「幽玄の間」

日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとのコミュニケーションの場として利用され、あらゆる世代の囲碁愛好者がパソコンやスマートフォン・タブレットで手軽に対局を楽しめる環境を提供しています。

(3) 貸室の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供したほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等に利用されました。

5 段級位認定

段級位の認定は囲碁上達の基準となり棋力の到達度の証明にもなっています。また、囲碁は棋力の差がある者同士の対局でもハンディキャップを付与することにより、勝敗を競うことが可能であり、全国の囲碁愛好者を対象に段級位認定を実施しました。

(1) 段級位認定大会

都道府県民まつりでは、4,034人が認定大会に参加しました。その他、各施設、支部等でも認定大会を実施しました。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁あるいは、一般紙に掲載される認定問題やホームページ上の認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(3) 情報会員

情報会員向けにホームページ上に認定問題を掲載し、段級位認定を行いました。

(4) 幽玄の間

『幽玄の間』で一定の条件を満たして免状申請された方に、レーティングによる免状発行を行いました。

6 囲碁大会の開催

各県の日本棋院県本部・県支部連合会と連携し、または支部の協力を得て、囲碁大会の主催・後援等を行いました。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会を実施しました。そのほかにも子ども大会への協力・後援を積極的に行いました。

(1) 第40回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

高校生を対象とし、男子団体戦・女子団体戦・男子個人戦・女子個人戦の4部門に分かれて行われる大会です。団体戦は3名1チーム。

都道府県大会には全国で1240校3,948名（男子:2,958名・女子990名）が参加。参加校数が大きく伸びました。

代表選手が集まる全国大会は7月25日から27日にかけて東京・日本棋院で行われました。

男子団体戦は県立春日部高校（埼玉）、女子団体戦は都立戸山高校（東京）が優勝、男子個人戦は津田裕生さん（埼玉・県立浦和高校3年）、女子個人戦は辻萌夏さん（東京・都立戸山

高等3年)が優勝しました。

本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(2) 第13回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

小・中学生を対象とした3名1チームの団体戦です。都道府県大会は小学校361校、1,111人、中学校192校、717人が参加しました。小・中学校での部活動や正課授業の取組の一助となるよう大会の充実を図りました。

全国大会は7月31日～8月1日に東京・日本棋院で実施。

小学校の部は川崎市立東青小学校(神奈川)、中学校の部は府立洛北高校附属中学校(京都)が優勝。

本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(3) 第37回 文部科学大臣杯少年少女囲碁大会

小・中学生を対象とした個人戦です。

都道府県大会には小学生3,285名、中学生1,090名、合計4,375名が参加。県内複数個所での開催、入門講座や初級者大会の実施も行いました。

全国大会を8月2～3日に東京・日本棋院で実施。大会の模様はNHK Eテレで放送されました。

小学生の部優勝は三浦太郎さん(東京・荒川区立第二瑞光小学校6年)、中学生の部優勝は森田拳さん(京都・府立洛北高校附属中学校2年)でした。

本大会は公益財団法人JKAの青少年の健全育成補助事業の補助を受けて開催しました。

(4) 第6回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

小学生を対象とした個人戦で、低学年の部、高学年の部に分かれています。

全国大会は12月10～11日に岡山県倉敷市で行われ、こども棋聖の称号をかけて競いました。

低学年の部は向井俊成さん(兵庫・神戸市立御影小学校3年)、高学年の部は福岡航太朗さん(東京・杉並区立高井戸第二小学校5年)が優勝しました。

(5) その他の主なこども大会

その他にも高校生以下を対象としたさまざまな大会を実施しました。

- ・第5回ロッテこども大会:「コアラのマーチ」のキャラクターを使った親しみやすいイベントがこどもたちの人気を呼び、入門から級位者まで約900名が参加しました。
- ・第18回ジュニア囲碁大会:棋力認定大会。約500名が参加しました。
- ・第15回ジュニア囲碁パーク:東京武道館を会場に、著名棋士をゲストに登場。保護者も含め約1,700名が来場しました。

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会並びに地域独自の大会を開催しました。主な大会は以下の通りとなりました。

(1) 第9回宝酒造杯クラス別チャンピオン戦

級位戦から名人戦まで9クラスに分かれての棋力別大会。全国11都市、12会場で延べ14回

の大会を実施し、9,329名が参加しました。12月4日に京都のホテルグランヴィア京都において全国大会を開催し、チャンピオンを決定しました。

(2) アマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ選手権日本代表決定戦

アマチュア碁界三大棋戦であるアマ名人戦、アマ本因坊戦、世界アマ選手権日本代表決定戦は本年も全国から多数の参加を頂き、全国大会を東京・日本棋院で実施しました。

第11回朝日アマチュア囲碁名人戦全国大会は7月2、3日に実施、平野翔大さん（京都）が優勝しました。

第62回全日本アマチュア本因坊決定戦全国大会は8月20、21日に開催、大関稔さん（招待）が栄冠に輝きました。

囲碁・将棋チャンネル杯第38回 世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定戦は9月17～18日に行われ、坂本修作さん（埼玉）が世界アマ世界大会への切符を手にしました。

(3) 第59回全日本女流アマ選手権戦

女流のアマチュアを対象とした大会。都道府県大会を勝ち上がった代表選手96名により、3月11～12日に東京・日本棋院で全国大会を開催しました。岩田紗絵加さん（東京）が初優勝に輝きました。

(4) 第54回女流アマ都市対抗戦

女流のアマチュア5名1チームの団体戦で、アマ碁界最大規模の都市対抗戦。11月15日・16日の2日間、福岡県北九州市で開催しました。全国から500名の選手が参加し、7クラス中最上位のAクラス紅組は操友会（京都）が優勝しました。

(5) 第16回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権

アマチュアなら誰でも参加できる1チーム3名編成の団体戦。東京と大阪で開催し、それぞれの優勝チームによる決勝戦を11月20日に東京・日本棋院で実施しました。決勝戦を勝ち抜いた「青葉ちゃんを囲む会」チームには、内閣総理大臣杯が授与されました。

(6) 阪急納涼囲碁まつり in Tokyo の開催

平成23年より大阪で毎年開催され好評を博していた「阪急納涼囲碁まつり」を、平成26年から東京でも開催。会場となった第一ホテル東京には8月14～15日の2日間、多数の囲碁ファンが来場し、公開対局、囲碁大会等の様々なイベントに参加しました。

(7) 都道府県民まつりの開催

地域間での親睦・交流を深めることを目的とした支部単位の団体戦や、認定大会の開催を県本部・支部連合会を通じて促進し多数の参加を得ました。

① 世界アマ選手権日本代表決定戦 県予選

年々参加国が増加する「世界アマ大会」への国内予選を開催し、1,599人が参加しました。

② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会

各県の大会・行事の中で、地域間での親睦・交流を深めることを目的に支部単位の団体戦を開催し、1,701人が参加しました。

(8) 全国規模イベントへの参加

10月16日から17日に長崎県西海市で行われた「ねんりんピック健康福祉祭」へ、生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として棋士を派遣したほか、その他のさまざまなイベントにも棋士を派遣する等を通じて参加・協力を致しました。

(9) インターネット大会

インターネット対局サイト「幽玄の間」を利用し、第15回囲碁アマチュア竜星戦スカパー！

杯ネット囲碁選手権（参加者数 1,035 名、前年比-119）、第 2 回ネット囲碁都道府県対抗戦（参加者数 303 名、前年比-84）の大会を実施しました。

(10) その他大会等

平成 25 年から 1 月 5 日を「囲碁の日」と制定し、打ち初め式を東京本院、関西総本部、中部総本部で開催しています。その他、ジャンボ大会、オールアマ団体戦等を開催し囲碁ファンの交流の場とともに、棋力向上につながる機会づくりを行いました。

6-3 國際囲碁選手権の開催協力および海外囲碁大会等への協力

(1) 第 37 回世界アマチュア囲碁選手権戦

囲碁のオリンピックともいわれる「第 37 回世界アマチュア囲碁選手権戦（6 月 3 日から 10 日）」が中国・江蘇省 無錫市で盛大に開催され、日本代表として平岡聰選手を派遣。

2010 年から、世界アマチュア囲碁選手権戦は、日本・中国・韓国で 2 年ごとに開催国が交代する輪番制となっています。

(2) 第 3 回世界大学生囲碁選手権

7 月 7 日～13 日、上海応昌期教育基金会が主催する世界大学生囲碁大会がカナダ・トロントにて開催。日本は大学生 12 名を出場させた。

(3) 第 16 回ハンファ生命杯 少年少女囲碁選手権戦（主催：韓国アマチュア囲碁協会＝KABA）

7 月 27 日から 30 日にかけて韓国ソウルにて開催。日本からは 2 名の子どもたち及び小松大樹二段を監督引率者として派遣しました。参加選手は中国、中華台北、日本、ヨーロッパ、タイ、インドネシア、ベトナムから計 11 名の対戦となりました。

(4) 第 11 回韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦

9 月 3 日～9 日、韓国・全羅北道扶安にて開催され、日本からアマ代表の安東翔太選手が参加しました。

(5) 第 33 回ワールドユース碁

8 月 3 日から 8 月 20 日に、東京で開催されました。カナダ、中国、ヨーロッパ、ヨーロピアン、日本、韓国、シンガポール、マレーシア、タイ、アメリカから小学生 12 名 中学生 12 名、計 24 名が一堂集結しました。

(6) JENESYS2.0 中国大学生訪日団第 29 陣

外務省の事業として日中友好会館が中国の大学生を日本に招待し、その内の囲碁分団 28 名が 2016 年 3 月 9 日、市ヶ谷日本棋院に訪問。中国側のプロ 7 名他学生と日本棋院の若手棋士 7 名他日本の大学生との囲碁交流を行いました。

(7) 第 10 回韓国金寅杯

11 月 4 日～7 日、韓国アマチュア囲碁協会が主催する上記大会について、棋院 HP を通じての告知と、国際交流団体への声かけを行いました。

6-4 東日本大震災復興支援タケフ基金の活動

東日本大震災により被災された支部及び会員の方々への支援と被災された囲碁ファンの皆様に元気になっていただくイベントの開催等を目的として、平成 23 年に創設したタケフ基金を活用し、本年度は被災した青森県、岩手県、宮城県、福島県に秋田県、山形県を加えた東北 6 県が一堂に会し「タケフの絆・こころの碁交流大会」を開催しました。

●東北6県復興祈念囲碁イベント「タケフの絆・こころの碁交流大会」

○日程：平成28年10月29日（土）～10月30日（日）

○会場：青森県八戸市 「八戸パークホテル」

○主催：公益財団法人日本棋院

○主管：日本棋院青森県本部、日本棋院八戸支部

○共催：デーリー東北新聞社、東奥日報社、岩手日報社、河北新報社、秋田魁新報社、山形新聞・山形放送、福島民報社

○後援：青森県、八戸市

○協賛：宝酒造株式会社

○参加棋士：工藤紀夫九段、山城宏九段（副理事長）、黒瀧正憲八段、黒瀧正樹六段、武宮陽光六段、平野則一五段（常務理事）、奥田あや三段、古川こんゆ二段、兆 乾二段

○開催概要：

- ① 東北6県本部・県支部連合会役員対抗戦 東北6県の各県本部、県支部連合会の役員による5人編成の団体戦。
- ② 復興祈念クラス別囲碁大会 棋力別に3クラスに分かれ、それぞれのクラスで3回戦を戦う個人戦。
- ③ 棋士による多面打ち指導碁。
- ④ お楽しみ囲碁講座
- ⑤ 女流棋士公開対局・大盤解説会 参加人数 延べ170人。

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ2016年3月29日に合同表彰式を実施しました。

(1) 大倉喜七郎賞

日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ、昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰します。

第46回大倉喜七郎賞 山根 敏郎（日本棋院長野県本部本部長 長野県日中友好協会副会長）

田中 毅（ロータリー囲碁同好会 名誉会長）

南 嘉輝（一般財団法人 温知会 会津中央病院 理事長）

(2) 秀哉賞

二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士に贈呈されます。

第54回秀哉賞 井山裕太 棋聖、本因坊、王座、天元、碁聖、十段

(3) 棋道賞

棋道賞は、日本棋院が発行する「月刊碁ワールド」の前身「棋道」（昭和42年）によって創設され日本棋院所属棋士を対象に各棋戦において、顕著な成績を収めた棋士に各賞を授与します。選考委員は、タイトル戦を主催、協賛する新聞各社・テレビ局の囲碁関係者と出版担当常務理事により選出されます。

第50回棋道賞 最優秀棋士賞 井山 裕太 棋聖・本因坊・王座・天元・碁聖・十段

優秀棋士賞 高尾 紳路 名人

新人賞 大西 竜平 新人王

女流賞	謝 依旻	女流名人・女流棋聖、扇興杯、女流会津杯
国際賞	該当なし	
最多勝利賞	一力 遼	竜星・広島アルミ杯 47 勝19敗 (66 局)
勝率第1位賞	大西 竜平	新人王 0.7959 (39 勝10敗)
連勝賞	安達 利昌	四段 15 連勝
最多対局賞	一力 遼	竜星・広島アルミ杯 66 局 (47 勝19敗)

※タイトル・段位は受賞時

(4) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として囲碁殿堂資料館の発足とともに創設。囲碁史上に多大な業績をあげ、囲碁の隆盛に貢献した人を顕彰（殿堂入り）します。

平成 28 年度 寛蓮、井上幻庵因碩

8 囲碁関係情報提供

囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命と認識し、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を社会に発信しました。

(1) 雑誌、新聞の発行

- ① 月刊「碁ワールド」定価 885 円 毎月 20 日発売 B5 判 152 頁建
中級者から有段者向け月刊誌として、講座、読み物、海外ニュースなどバラエティーに富んだ囲碁情報を掲載しました。巻頭企画は、アルファ碁 VS. 李世ドル、井山七冠特集、囲碁電王戦等を掲載しました。そのほか特集企画として、囲碁 A I マスター特集や、付録でマスター特撰譜の解説など掲載しました。
- ② 月刊「囲碁未来」定価 637 円 每月 5 日発売 B5 判 100 頁建
入門から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための講座・読み物、布石・定石等の問題を多数掲載しました。
- ③ 新聞「週刊碁」定価 280 円 毎週月曜日発行 タブロイド判 20 頁建
週刊碁は、囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座、認定問題など、幅広い層を対象とする多彩な構成であり、囲碁爱好者に情報を発信しました。
- ④ 「囲碁年鑑」定価 3,780 円 年 1 回発行 B5 判 396 頁建
月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など平成 27 年一年間の囲碁情報を掲載しました。

(2) 電子媒体による情報提供

- ① 日本棋院ホームページ

日本棋院ホームページでは、2015 年 4 月にサイトの全面リニューアルを行い、スマートフォンに最適化されたページ作り、英語、中国語、韓国語への対応などを行いました。

年間 1,300 件以上の最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報記事を更新しました。棋士プロフィールなどの囲碁情報や入門ページ、英文ページなどを含め、全世界で延 129 万ユーザーから年間 2387 万アクセスがありました。

② 「幽玄の間」

「幽玄の間」では、対局の他に国内外のトップ棋士の対局を2,000局以上の中継を行い、棋戦情報等を積極的に提供しました。また、ホームページ上でも中継棋譜の再生が出来る仕組みを導入しました。

- ・ 棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップレベルの棋譜を配信
- ・ 同好会機能による囲碁ファン同士の交流

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、60年以上に亘る、5万局以上の棋譜データを提供しており、ためになる棋譜解説、動画講座、早わかりタイムトライアル等の講座、入門初級者向けのページなど様々なファン層に対応した情報提供を行いました。

また、幽玄の間と同様に決済方法の多様化を図り多数の方にご利用いただきました。

④ 囲碁アイランド

主に若年層の入門を促進するためiOSとAndroidで囲碁アイランドの提供を平成27年より開始しました。アニメーションと問題を解いて囲碁のルールを覚え自然に上達できる本ソフトは利用者から好評をいただいている。

⑤ 電子書籍アプリ

iPhone&iPad端末からは「i碁BOOKS」、パソコンからは「e碁BOOKS」として週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、書籍を電子書籍アプリで配信しました。

9 囲碁殿堂資料館

囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介しています。また、関連図書、由緒ある囲碁用品の展示、歴史に残る名棋譜を整理し、展示しています。平成28年度入館者数は4,570人、特別対局室見学者は515人。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を生かしながら東京本院と一体になって、活動を行いました。

10-1 有楽町囲碁センター

有楽町囲碁センターは、平成25年6月に移転以降、立地の良さ並びにファンの皆様に喜ばれるイベント等を開催して多くのファンに来館頂きました。

(1) 各種大会の開催（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- | | |
|------------|------|
| ・ お楽しみ囲碁大会 | 190人 |
| ・ 段級位認定大会 | 670人 |
| ・ 松竹梅囲碁大会 | 749人 |

(2) 会館事業

一般対局室の入場者は58,390人。一般棋士による指導碁、囲碁教室を開催し、多くの方に利用頂きました。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統括し囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

普及拠点である「梅田囲碁サロン」および「茶屋町囲碁サロン（会員制）」を運営し、両サロンで囲碁イベント、貸室、懇親会そして教室等を開催しました。

（1）各種大会の開催および後援（主なイベントの参加人数は以下の通り）

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| ・夏休み子ども囲碁フェスティバル | (延べ 500 人) |
| ・歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり | (145 人) |
| ・阪急電鉄 納涼囲碁まつり | (2 日間で延べ 1,700 人) |
| ・定例段級位認定大会 | (年 6 回で延べ 462 人) |
| ・級位者大会[年 5 回]および各種親睦大会[年 11 回] | (合計 1066 人) |

（2）会館事業の充実（梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン）

- ・「梅田囲碁サロン」を年末年始以外、年中無休で営業し普及に努めました。

会館ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日、有段者の集いを開催し、貸室利用においては囲碁学校、入門教室をはじめ各種団体の勧誘を行いました。また、販売サービスとして盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えの充実にも努め、快適な環境改善に取り組み、年間約 23,575 人に利用して頂きました。

・「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトに会員制囲碁サロンとして昨年末に大阪市北区茶屋町にオープンしました。会員数も順調に増え、現在、会員が約 36 名、法人会員 5 社が登録し、新たな顧客ニーズに対応した普及を行っております。

（3）大学での囲碁講座開設への取組み

平成 28 年度は関西圏の大学 3 校で囲碁講座が取り入れられました。引き続き若者層への普及拡大として今後も各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行います。

（4）小中学校への囲碁普及活動の充実

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校や幼稚園等に総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう働きかけました。平成 28 年度は新規で尼崎こども囲碁大会そして昨年に引き続き大阪府寝屋川市、広島県廿日市市では地域主催でこども大会および入門教室が開催され囲碁授業導入の足掛かりとなりました。また、すでに小学校等で行われている囲碁教室への協力や地域の普及指導員への支援等も行い、今後も引き続き子ども達への普及をより一層拡大するように努めます。

（5）当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及

関西圏の中心都市部以外の遠隔地域の囲碁普及として各地域の支部や囲碁団体の協力を得て、平成 28 年度は 7 地区において大会を開催し 497 名が参加しました。また、上記大会の開催により地域との連携強化が図れ、個人、支部会員等の維持拡大と支部を拠点とした普及活動の充実に努めました。

10-3 中部総本部

名古屋市に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統括し、囲碁普及を通じて社会に貢献できる活動に取り組みました。

(1) 各種大会の主催および後援等（主なイベントは以下の通り）

- ・ 囲碁ゼミナール (57人)
- ・ 東海地区朝日アマ団体十傑戦 (105人)
- ・ ジャンボ団体戦 (220人)
- ・ 中部こども級位者大会 (144人)
- ・ セントレア囲碁まつり (226人)
- ・ 会員と棋士囲碁のつどい (86人)
- ・ 日経杯新春囲碁大会 (169人)
- ・ 江蘇省囲碁交流 (108人)

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

- ・ 中日新聞社主催「第57期王冠戦」（中部総本部プロ棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

- ① 指導碁は、平日1名、土・日曜日は1、2名の棋士を配し、充実に努めました。
- ② 入門から有段者までの一貫したステップアップ講座、講習会を全13講座開設し、囲碁ファンの底辺拡大に努めました。
 - ・ 「はじめての囲碁講座～よく分かる囲碁講座」 (858人)
こども教室 (229人)、実力向上講座 (187人)、レディース講座 (111人)
を目指せシングル・初級 (326人)、特別高段講座 (205人)、総合講座 (300人)、
モーニング講座 (182人)

(4) 平成28年度では、6社に対して部屋の貸付を行いましたが、2社が退去しました。

10-4 海外囲碁センター

- (1) 2014年5月ニューヨーク碁センターを売却して得られた資金によりアメリカ囲碁協会と提携して米国NPO法人『岩本北米基金=INAF』を創設し、アメリカ東海岸センターの活動促進、文化交流・指導プログラムなど北米での囲碁普及活動の支援をしています。
- (2) 北米の囲碁普及を促進するシアトル碁センターの活動を支援するため、現地法人と連携をとりながら、2017年3月、シアトルへ棋士派遣を行いました。
- (3) ブラジル・サンパウロにある南米本部、並びにオランダ・アムステルフェーンのヨーロッパ囲碁文化センターについては、運営に係わる契約を新たに締結して、それぞれのセンタービルを現地普及団体に貸与し、現地法人と連携をとりながら囲碁普及活動を支援しました。
南米本部については、有限会社の清算、建物の修繕、高齢化した組織体制の見直しなどを目指し、現地弁護士による調査を開始しました。

II 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

（1）免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行します。

免状は、棋力の証明となるのもので、9級から八段までの2,091通の免状発行を実施し、免状には審査役である棋士の署名がなされました。

（2）普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を与え、六段以上の高段位免状保有者には、公認審判員申請の権利を付与しています。指導員になるための指導員研修会の開催と書類審査を実施しました。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4F～6F部分を他法人に賃貸しました。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

（1）販売事業

日本棋院の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行いました。また、どこでも購入できるよう、通信販売センターの設置や、インターネットを利用したオンラインショップでの物品販売も実施しました。

（2）書籍製作販売

入門から高段者まで棋力向上の講座物、問題集、棋譜解説、定石、手筋、死活、詰碁、事典、囲碁の歴史書など、囲碁に関する書籍を日本棋院各拠点の売店及び全国の書店で販売しました。本年度は以下9点の新刊を発刊した。

「井山裕太七冠達成への道」、「お悩み天国③」、「GO・碁・ドリル」⑪・⑫、「攻め合いの極意」、「ヨセを得意に」、「棋力アップ問題集」、「ヨセの強化書基礎編」、「格言が教えてくれる」

III 管理部門

1 受取寄付金

受取寄付金に関して、寄付金等取扱規程を平成25年4月1日制定し、寄付金の取扱い、手続きや寄付者への公益法人による税制上の優遇制度の理解促進に努めました。

なお、「ナショナルチーム応援募金」「がっこう囲碁普及基金」をはじめ個別の公益事業を指定していただいた特定寄付金については、これまでの所得控除に加えて平成28年3月から税額控除を寄付者の皆様に選んでいただけすることになり、寄付者へより囲碁普及への一層の理解をいただけるように努力いたしました。

2 コンプライアンス

公益法人として、定款に基づく執行体制、諸規程に沿った活動に努め、透明性の向上やガバナンスの確立に注力すべく、内部統制整備委員会を開催しました。

平成28年度は、内部統制取組方針に基づき、取組み項目全13項目（コンプライアンス行動規範～不正通報体制整備）に取組み、規定類整備、入出金の適正化、システム改善、備品等監査、ヘルプデスクの設置等の改善取組みを実施しました。

今後も引き続き、コンプライアンス行動規範の徹底を行うとともに、入出金の適正化など継続的に適正な見直しを行います。

3 暴力団排除条項について

公益法人として、暴力団排除条項に係る対応について、契約書（新規・既存とも）に、「暴力団排除条項」が見られることが多くなっており、各部署の契約書作成の際の対応を以下の基準とした。

＜契約書への「暴排条項」の記載について＞

- ・取引先から契約書に記載するよう要請があった場合は、記載する。
- ・棋院から相手方に記載を要請する場合は、以下の通りとする。
 - ⑤ 既存契約の場合→契約書に記載、又は誓約書の差し入れ
 - ⑥ 新規契約の場合→契約書に記載

4 囲碁大使の拡充

日本棋院創立90周年事業の一環として新設した、財界や著名人の方々5名に委嘱し「囲碁大使」として、囲碁の魅力の発信等を通して、囲碁ファンの拡大に努めました。

5 広報コミュニケーション室へ拡充

これまで各部門に分散されていた広報の機能を一元化し、平成27年10月1日「広報室」を設置し、さらに平成28年12月に広報コミュニケーション室へ拡充いたしました。

受動的な広報からより一層積極的な広報活動を目指し、特に東京五輪を契機とした囲碁の国内外への普及促進を行います。

IV 「100周年ビジョン」の推進

囲碁人口の減少、世界でなかなか勝てない日本棋士、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創立 90 周年にあたる平成 26 年に、10 年後の 100 周年に向けたビジョンをどう描くかという構想のもと、「100 周年プロジェクト」を開始しました。同プロジェクトは「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと、囲碁界の未来がない、という強い危機感をもとに、以下の 10 の行動を提言し、その進捗については矢印以下に付記しました。

〈100周年の姿〉 囲碁人口 500 万人！学校、企業、家庭で老若男女が囲碁を楽しむ。

行動-1 囲碁普及～囲碁人口増大を

- (1) 教育への導入
 - ・ 幼稚園、小学校授業（放課後含む）の拡大
⇒ ⇒正課 95 校、18,397 人、非正課 147 校、34,947 人 241 校、52,984 延べ人
 - ・ 大学の囲碁部への支援
⇒ 全日本学生囲碁連盟との連携強化
 - ・ 大学への囲碁講座の拡大
⇒ 30 大学 1,526 名 を対象に実施
- (2) 社会人と女性・高齢者への普及
 - ・ 企業新入社員研修に囲碁を導入 ⇒ センコー社、ブルボン社 更に拡大
 - ・ 囲碁ガールズの拡大
「囲碁ガール」、「ガールズフェスタ 2016 グランド大会」を推奨
 - ・ 碁会所等、他の囲碁団体と連携強化を通して高齢者ファンの増大
⇒ 全日本囲碁協会と連携し強化
- (3) 草の根囲碁普及活動の支援
 - ・ 囲碁の裾野拡大に向け、初心者対象指導法と級位認定の統一
平成 27 年導入の「初心者・入門コース」の店頭販売による囲碁ファンの拡大
A I の進化を踏まえた認定等検討
 - ・ 囲碁カフェ、朝囲碁ボランティア活動支援
 - ・ 普及指導員・学校指導員制度の改革・活性化=制度改正と普及指導員研修会や支部懇談会などで説明会を開催

〈100周年の姿〉 世界トップ 10 に 2 人、トップ 20 に 4 人、トップ 50 に 10 人

行動-2 世界で勝てる棋士を数多く育成する

- (1) 院生制度改革
 - ・ ネットを活用した院生養成を創設し、全国から才能ある人材を集め。
ジュニアネットリーグ戦の継続検討、日本棋院院生修士を付与（2016 年 12 月～）
- (2) 棋士の登用
 - ・ 棋士採用時に社会人としてのマナーなど人格構成を実施。
棋士採用時に社会人としてのマナーなど人格構成を実施
院生師範との連携
- (3) 若手棋士の育成

- ・ナショナルチームの活動強化⇒棋力強化合宿、海外棋戦への積極的参戦

(4) ランキング制度の導入

- ・国内ランキング制度の検討⇒韓国ランキング制、テニス・ゴルフランキング制を参考に継続検討

〈100周年の姿〉 日本棋院会員を10万人以上！！

行動-3 大胆かつ抜本的な改革を実施し、財務基盤の確立を

- (1) インターネットの普及や経済・社会の変化に即応、意思決定の迅速化を図るため執行部へ外部人材を登用
 - ・平成28年6月開催の評議員会により、15名の理事中外部理事は、7名
- (2) 棋士の報酬制度を従来以上に囲碁普及への貢献を、重視する棋士の報酬制度のあり方を検討する。
- (3) 職員の人事制度も、収支改善に向け経営環境の変化に対応したインセンティブの働く制度の導入を図る。
 - ・職員の人事考課制度の改定を平成29年度から導入予定
- (4) 財務基盤強化
 - 棋士の報酬に係る財務分析を行うPT（専門家）を立上げ、現状分析を行うとともに、将来にむけた対策を検討する。
 - 会員制度の改革…個人会員・ネット会員を見直し、新たな日本棋院会員を創設する。
「会員拡大推進本部の設置」を12月に立上げ

(基本方針)

- イ 無料ID者11万人を棋院会員に取り込む。⇒有料化メニューへの誘導（メルマガ）
- ロ 紙面会員の15メニューは、統廃合を検討。また、紙面会員は、高齢層、収支への影響を考慮し、継続するが、減収に歯止めは掛からないので、紙面の見直しや発送費の削減などの対策を検討中
- ハ 新規会員は、基本的にネット会員とする。なお、「幽玄の間」は料金値下げも視野に入れるため、システム使用料の見直し（減額）を抜本的に実行。
「ITシステム改革推進本部」を12月に立上げ、会員登録、収納管理、物販システムのためにECサイトの導入を検討
- ホ 囲碁ファンの入り口としてのHPとして、HPの使い勝手などを含め見直す。
また、HPは事業部横断的に係る事から体制を「広報コミュニケーション室」（12月～）に集約。
・ネット「幽玄の間」を中心にして、小口販売を強化して、ロングテールでの収入増へ。
クラウドファンディング（日本棋院ドリームファンディング）による13路盤プロ・アマトーナメント戦を実施

〈100周年の姿〉 地域対抗、実業団が加わり、囲碁コングレスがある。

行動-4 地域対抗・実業団棋戦と囲碁コングレスの創設

- (1) 地域対抗プロ・アマ棋戦の創設
- (2) 実業団対抗戦の創設
- (3) ジャパン碁コングレス開催

【2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて】

- ・世界アマ囲碁大会、囲碁サミット、女流都市対抗戦やタイトル戦を含めて、同時期に年一回の

碁コンファレンスを開催する。 ⇒ 「東京 2020PT」を設置し、囲碁文化の発信に取り組む
(世界アマチュア選手権、サマー碁スクール等メニュー検討)

イ 議員囲碁連盟、行政(文科省、文化庁、東京都庁、外務省等)へのアプローチを継続

ロ 地域での開催…静岡開催(2018.2 徳川家康公記念世界囲碁コンgres IN静岡)

(4) タイトル戦をファンがより楽しめるよう土日の開催を増やす。

⇒スポンサー対応等検討

(5) 遠隔地の方との対局の際には、ネット対局を拡大する。

・「幽玄の間」会員による地域対抗戦の開催 ⇒ 継続実施

〈100周年の姿〉 ネット会員 10万人以上、入門から高段者、子どもからお年寄りまで幅広い層が利用している。

行動-5 ネット戦略を描き、幅広い層へアピール

(1) ネット戦略を構築するプロジェクトチームを組成して、抜本改革を行う。

・「会員拡大推進」の中で、新規NET会員を創設(2017.04~)

(2) 「幽玄の間」のサービス拡充

・幽玄の間、情報会員のセット割引を継続実施

(3) 入門・初級者戦略

・入門・初心者向けアプリ「囲碁アイランド」(IOS Android)販売中。

(4) ホームページの活用

・2015年に改造したホームページについて、使い勝手の悪さの解消並びに大会参加登録や料金収納などが出来るECサイトの導入を今後進める。

・IN事業部のホームページ担当を、広報コミュニケーション室に12月業務移管し、社会に発信する広報を展開

〈100周年の姿〉 囲碁の棋戦結果などが、常にニュースになる。

ニコ動等の中継は常に10万人以上が視聴している。

行動-6 メディア戦略～囲碁の知名度を徹底的に上げる。

(1) 日本棋院内に専任メディア戦略・広報チームを組成する。

・新たに広報コミュニケーション室を12月に立上げ、囲碁の知名度を上げる取組みを推進中

(2) 既存メディア(TV、新聞、雑誌)との関係強化

・タイムリーなニュースリリース発信、新聞各社との連携強化(記者発表等)

・スタープレイヤーの積極的掲載・取材による「囲碁」のPR推進

(3) 新規メディアの開拓

・ツイッター、ファイスブック等のソーシャルメディアも活用

・ニコ動、ユーチューブ等動画の活用

(4) 漫画、アニメ、ゲームによる囲碁の認知度を高める。

〈100周年の姿〉 東京五輪で囲碁フェスティバルが開催され、ジャパン碁コンgresがレガシーとして存続し、世界のGOの中心として日本が輝いている。

行動-7 国際戦略～世界のGOの中心として日本が輝く

(1) 東京五輪にあわせた囲碁の世界発信

- ・「サマー碁キャンプ」等の東京都への助成申請
 - ・2018年～2019年の世界アマチュア選手権誘致、2020年オリンピック・パラリンピックでのマインドスポーツメニュー検討と行政への働きかけ
 - ・スポーツ・文化・ワールドフォーラム「公式サイドイベント」提案を行い助成を受ける。
- (2) シアトル、サンパウロ、アムステルダム碁センターを拠点とした、また、INAF（岩本

北米基金を活用した日本囲碁の世界普及拡大

- ・INAFインバウンド・アウトバウンドプログラム実施
- ・ASEAN囲碁研修アウトバウンドの継続実施
- ・EGCC碁キャンプへの継続協力
- ・サンパウロ南米本部への課題取組み（碁センターの運営等）
- ・USコングレス、欧州コングレスへ棋士の継続派遣による囲碁普及の拡大
- ・海外大使館との連携による囲碁普及拡大⇒外務省への協力依頼

(3) コンテンツを翻訳し日本発囲碁コンテンツを開拓する

- ・HPには英語・中国語・韓国語で訳せる機能導入提供
- ・AI棋戦や世界棋戦での英訳等中継発信

〈100周年の姿〉囲碁が子供、経営者、シニアにとって有効であることが社会の常識になっている。

行動-8 围碁の研究を深め、データの蓄積～人工知能・科学との融合

- (1) 棋士の育成手法に関するリサーチを強化して、人工知能を組み合わせた、指導法を確立する。
- ・「DeepZenGoプロジェクト」への協力（2016.3月～）
- (2) 教育、医療、家族・地域の絆など、囲碁の多面的な魅力と効用を主に子供、成人シニアに
- 分けて研究し、海外研究機関とも連携・アピールする。
- ・子供にとって囲碁による情操面、頭脳面での効能
 - ・囲碁と学業成績との相関性実証調査
- (3) 大学における囲碁講座、囲碁のビジネス書発刊を通して、囲碁のもたらす戦略的発想など、ビジネスへの活動分析を深める。
- ・大学正課授業導入拡大、企業での社員囲碁講座導入の推進
- (4) シニア向けの研究を強化する（絆づくり、アルツハイマー研究、認知症研究）

〈100周年の姿〉地域定住棋士と地域拠点が連携し地域を盛り上げている。

行動-9 地方の普及盛り上げと地域の活性化

- (1) 日本棋院の地域普及の柱
- ・地域定住棋士制度の創設
 - ・独立採算制が可能なブロック制検討 ⇒ 九州本部での検討
- (2) 本部・県連・支部活性化と普及
- ・県本部・県連と連携し普及強化（棋士派遣等）のテコ入れを行い支部組織の活性化を図る。 ⇒ 継続
 - ・囲碁愛好家の底辺拡大のため「入門・初心者」会員の拡充を図る。 ⇒ 取組中
 - ・常務理事による地域アカウント体制の構築

- ・支部代表者懇談会を捉えた支部等意見への課題対応 ⇒ 取組中
- (3) 重点的取組みを指定して、「囲碁祭り」のような地方自治体との強化体制を構築し、地域の囲碁活性化を図る。
- ・平塚囲碁祭り、川越囲碁祭り、徳川家康公世界囲碁祭り（2018.2月）実行委員会に参画
 - ・日本棋院主催、後援大会等の積極的支援
 - ・囲碁サミット加盟市町村並びに 県本部等を中心とした地方自治体との体制強化に努め、地域の囲碁活性化を図る。⇒市長・教育長へのアプローチによる学校授業拡大並びに地域の紹介に囲碁を積極的に提案する。
(北海道エリア、東北エリア、中部エリア、関西エリア等)
 - ・震災復興祈念囲碁イベントは終了したが継続的に東北6県、熊本地方への「紹介・こころの碁」交流を継続的に推進

〈100周年の姿〉 ファンの声を尊重し、棋士、職員、囲碁関係者が一緒になって囲碁界を盛り上げている。

行動-10 围碁ファンの声を尊重し、100周年に向け発展を！

- ・9路盤、13路盤のスマホアプリの拡充 ⇒ 13路盤プロ・アマ戦
- ・トライボーディアン（囲碁、将棋、オセロ）選手権
- ・ファンに親しみやすい囲碁をモチーフとしたキャラクター採用によるホームページ、雑誌、新聞等への活用。

役員等に関する事項

平成 29 年 3 月 31 日現在

役名	氏名	就任年月日	担任職務	備考
総裁	今井 敬	H16. 7. 13	総裁	新日鐵住金株式会社 名誉顧問
顧問	大竹 英雄	H24. 6. 26	顧問	日本棋院棋士 九段
理事長	團 宏明	H28. 6. 28	理事長	公益財団法人通信文化協会 理事長
副理事長	山城 宏	H24. 6. 26	副理事長 棋院事業の全体統括、 財務部、経営企画室、 海外室	日本棋院棋士 九段
常務理事	大淵 盛人	H26. 6. 24	総務人事部	〃 九段
〃	円田 秀樹	H26. 6. 24	関西総本部	〃 九段
〃	小林 千寿	H28. 6. 28	棋戦企画部、 2020 年東京オリンピック・ パラリンピック担当	〃 六段
〃	平野 則一	H22. 7. 30	普及事業部	〃 五段
〃	原 幸子	H28. 6. 28	インターネット事業部、出版部	〃 四段
〃	重野 由紀	H28. 6. 28	中部総本部	〃 二段
理事	阿久根 操	H23. 6. 21		大成建設株式会社 常勤監査役
〃	岩崎 和人	H27. 6. 23		九州通信ネットワーク株式会社 代表取締役社長
〃	小川 誠子	H24. 6. 26		日本棋院棋士 六段
〃	齋藤喜以子	H27. 6. 23		くらし・まちづくりコーディネーター
〃	角 和夫	H25. 6. 25		阪急電鉄株式会社 代表取締役会長
〃	堀 義人	H25. 6. 25		グロービス経営大学院 学長
〃	松浦晃一郎	H23. 6. 21		元ユネスコ事務局長、世界ペア碁協会会长
監事	久保 秀夫	H28. 6. 28		日本棋院棋士 七段
〃	満田 康一	H28. 6. 28		公認会計士

平成 28 年度 事業報告

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 29 年 6 月
公益財団法人 日本棋院